月額購読料1835円(税込み)　南海日日新聞　2012年(平成24年) 2月10日　金曜日

世界遺産へ一歩前進

暫定リスト掲載へ

地元調整経て来年1月にも

環境省

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界自然遺産の国内候補地となっている「奄美・琉球諸島」（鹿児島、沖縄県）について、環境省は9日、政府推薦の前提となるユネスコ暫定リストへの早期掲載を目指す方針を決めた。地元と調整した上で、早ければ来年1月にも掲載したい考え。

暫定リストへの掲載について環境省はこれまで、国立公園の区域指定など国内手続きが最終段階に入った後としていたが、早期に載せることで遺産価値の理解促進や登録に向けた機運の醸成につなげる狙いがある。

細野豪志環境相は同日の中央環境審議会部会で「世界自然遺産の登録には、地域の皆さんの関わりや行政の連携が非常に重要になる」と述べ、登録実現に向けた取り組み強化を訴えた。

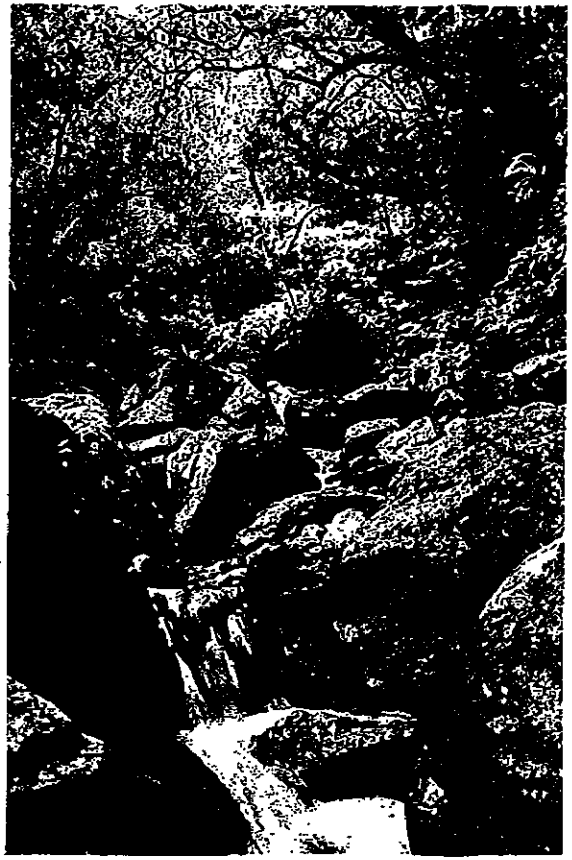
奄美・琉球諸島は大陸などと分離結合を繰り返した地史もあって、生物多様性に富み、アマミノクロウサギやヤンバルクイナなど希少な動植物が多い。2003年、知床（北海道、05年に登録）や小笠原諸島（東京都、11年に登録）とともに世界遺産の国内候補地に挙がったが、生態系の法的保護担保措置が不十分としてユネスコへの推薦が見送られた。

そのため、同省は、13年度の奄美の国立公園化などへ県や地元自治体と取り組んでいる。暫定リストに来年1月掲載されると、14年1月にもユネスコの世界遺産委員会へ推薦書が提出される。国際自然保護連合（IUCN）の現地調査を踏まえた同委員会の審査まで順調に進んだ場合、17年にも世界遺産に登録される見通し。

登録されれば小笠原に続いて国内5件目の世界自然遺産となる。実現へ向けては国立公園化に加え、外来種対策や豊かな自然を守り、利活用する施策整備が求められている。

暫定リストへの早期掲載について、奄美群島の世界自然遺産登録推進協議会長の朝山毅奄美市長は「世界遺産へ弾みがつく朗報。奄美12市町村で沖縄と連携を深めるとともに住民の自覚も高めて自然と共生する地域づくりを進め、登録を実現させたい」と述べた。

奄美大島観光物産協会の越間多輝雄会長は「世界遺産が実現したら奄美の知名度がアップし、観光振興による経済活性化も期待される。住民が世界的な奄美の自然の価値を再認識し、利活用しながら後世へ引き継ぐ施策を官民一体となって整えたい」と話した。



生物多様性を育み、世界自然遺産登録に向けた暫定リストへの記載が見込まれる奄美大島の森

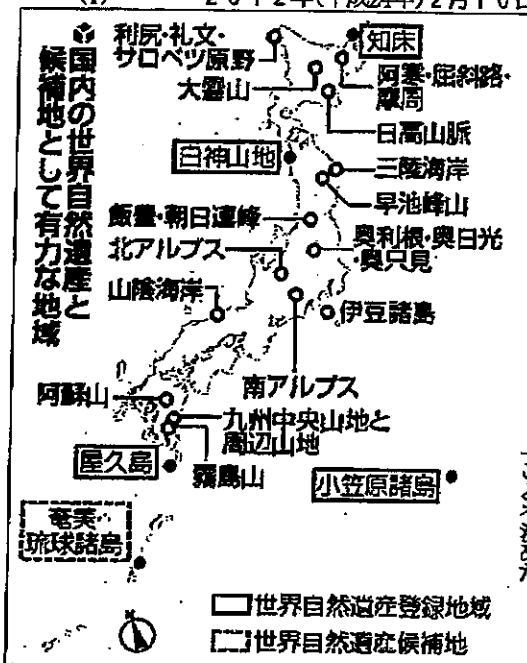
奄美

世界自然遺産

新候補地選定へ

今春、9年ぶり検討会

環境省と林野庁は、日本で6番目となる世界自然遺産候補地を選定するため、今春、学術的な検討会を設けることを決めた。



「阿寒・屈斜路・摩周」（北海道）、「南アルプス」（長野、山梨、静岡県）、「阿蘇山」（熊本県）など十数か所が候補地として検討される見込みだ。

日本の自然遺産は、1993年に白神山地（青森、秋田県）と屋久島（鹿児島県）、2005年に知床（北海道）、11年に小笠原諸島（東京都）の4か所が登録されている。5番目として、奄美・琉球諸島（鹿児島、沖縄県）を目指すことも決まっている。

検討会は、自然遺産登録にあたって、これまでも学術的な意見を報告するために設けられており、今回は6番目以降の候補地について検討するため9年ぶりに再開される。

前回の検討会では、候補に挙がった19か所のうち16か所が落選した。このうち阿寒湖は、その後の研究で湖内に生育する球状マリモが世界最古で、鳥のフンなどに混じってアイスランドなどに運ばれたことが判明。南アルプスは、本州を南北に横断するフォッサマグナ（大地溝帯）の地質調査が進んでいることから、有力候補に浮上している。

既に候補地に選ばれながら、まだ登録されていない奄美・琉球諸島は13年1月にも国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）の暫定リストに掲載し、なるべく早い登録を目指す。

（読売）

2012年（平成24年）2月10日（金）

奄美新聞　昭和34年8月51

奄美・琉球諸島
世界自然遺産

早期登録目指す

細野環境相　国立公園指定を推進

細野豪志環境相は9日、中央環境審議会自然環境・野生生物合同部会で奄美・琉球諸島の世界自然遺産登録について「地元関係者と調整を図りながら、できる限り早期の登録を目指して準備するよう指示した」と表明した。環境省は現在、5年後の世界自然遺産登録を目標に、国立公園指定などの作業を推進。ユネスコに提出する世界自然遺産「暫定リスト」の取りまとめも並行して進めている。

朝山市長「大変うれしい朗報」

環境省・林野庁は2003年に知床（北海道）、小笠原諸島（東京）、奄美・琉球諸島を世界自然遺産の登録候補地に選定。選考では①大陸との関係における独特な地史②極めて多様で固有性の高い亜熱帯生態系やサンゴ礁生態系③優れた陸上・海中景観④絶滅危惧種の生息地―が高い評価を受けた一方、保護・保全対策の遅れが指摘された。

奄美では、09年1月に国立公園指定の指針「奄美地域の自然資源保全・活用に関する基本的な考え方」をまとめ、「生態系管理型」「環境文化型」を軸とする新しい国立公園の考えを提示。2年後の国立公園指定を目指すスケジュールを掲げ、地元自治体と関係機関などが連携した作業を進めている。

細野大臣の表明を受けて、朝山毅奄美市長は「地元、奄美出身者にとって大変うれしい朗報。私たちは豊かな自然を後世に残す努力をしていかなければならず、自然と共生した環境づくりに努めている。また世界自然遺産登録により一層の人口交流、観光交流が図られることを期待している。奄美の行政を含め、官民一体でがんばりたい」と話した。

常緑の照葉樹林が広がる奄美の森＝湯湾岳から撮影＝